



岩堀 晃佑

Iwahori Kosuke

国税専門官 平成29年採用

大阪国税局 課税第二部

自身の長所が生かせる 達成感を得られる職場

Question

1

現在の仕事内容について教えてください。

私が所属する課税第二部資料調査課(通称「リョウチョウ」)は、税務署では対応できないような大口で悪質な不正が見込まれる法人に対して、高度な調査技法、機動力、組織力を駆使して調査を行っています。

資料調査課は、査察部のように裁判所から令状を得て行う強制調査ではなく、納税者の方の同意を得て行う任意調査を実施しています。

強制的な調査でないという点で難しさを感じる場面もありますが、時には40~50人を動員する大規模な調査を実施することもあり、税務署の調査とは一味違った経験をする事ができます。



Question

2

仕事のやりがいや達成感を感じたことを教えてください。

調査に対し、強い抵抗を示す納税者の方もいますが、粘り強く説得を続け、積み上げた証拠を基に不正取引の全容を解明し、適正・公平な課税を行うことができたときには、非常に大きな達成感を得ることができます。

不正取引の証拠には、帳簿書類以外にも様々なものがありますので、それらを見つけることが非常に重要になります。調査の初期の段階で、これらの証拠を見つけることができた場合に達成感を感じます。



Question

3

仕事をする上で辛いと感じた経験はありますか。また、どのように克服しましたか。

納税者の方から強い抵抗を受け、思うように調査展開が図れないことがありました。

説得方法や調査の進め方で悩んでいたとき、経験豊富な上司、先輩に相談したところ、具体的な説得方法や今後の方針について、多くのアドバイスをしてもらいました。

また、上司等に説明する中で自身の考えが整理されたこともあって、アドバイスを基に、自信を持って納税者の方を説得できました。苦労はしましたが、証拠を地道に積み上げ、不正取引の全容を解明したことで、納税者の方も納得・反省したという結果になりました。

それ以降、一人で悩まず、上司や先輩等、周囲にサポートしてもらうことで、いい結果につながる事が増えました。



Message

国税の職場は、充実した研修体制が整っているので、税法等の専門的な知識がなくても不安に思う必要はありません。

「素朴な疑問を大切にする」、「分からないことは素直に聞く」、これさえできれば大丈夫だと思います。また、一口に税務調査と言っても数字を扱うばかりではなく最終的には「人」対「人」の側面もあります。

自身の長所を生かし、向上心を持って挑戦し続けられる人であれば、国税の職場できっと活躍することができると思います。

いつか一回りも二回りも成長した皆さんと共に仕事ができる日を楽しみにしています！